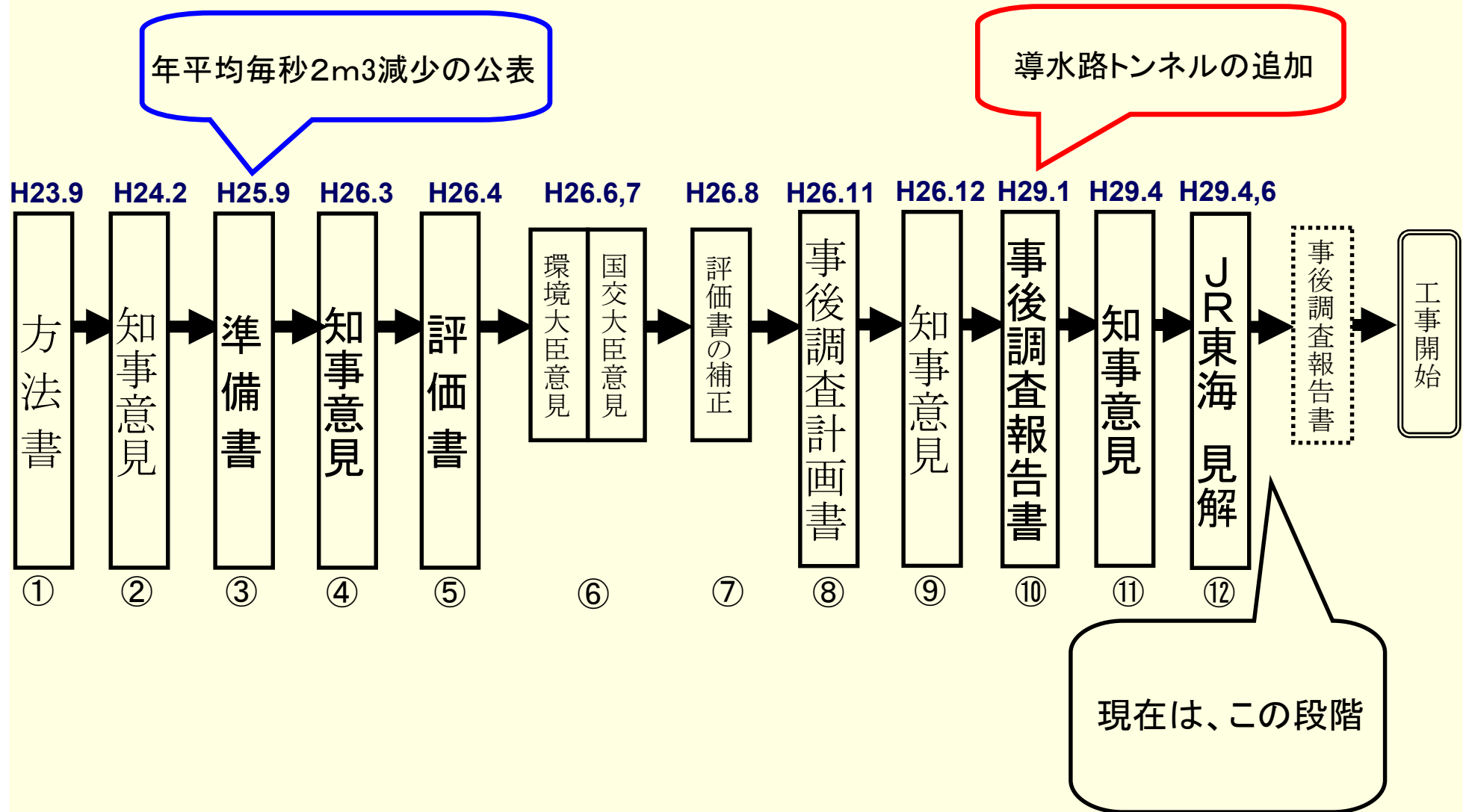


環境影響評価の状況

平成30年8月8日

静岡県

環境影響評価手続



「河川流量」に関する 議論 の推移

年平均毎秒2m³の流量減少

③ 準備書 (JR東海)

河川流量に影響がある。

④ 知事意見

本県境界内に発生した湧水は、全て現位置付近へ戻すこと。

⑤ 評価書 (JR東海)

水利用に影響が生じた場合に環境保全措置を実施する。

⑤ 評価書 (JR東海)

環境保全措置を実施することから、河川流量の減少量を少なくできる。

⑩ 事後調査報告書 (JR東海)

トンネル湧水は導水路トンネルから自然流下させる。

⑪ 知事意見

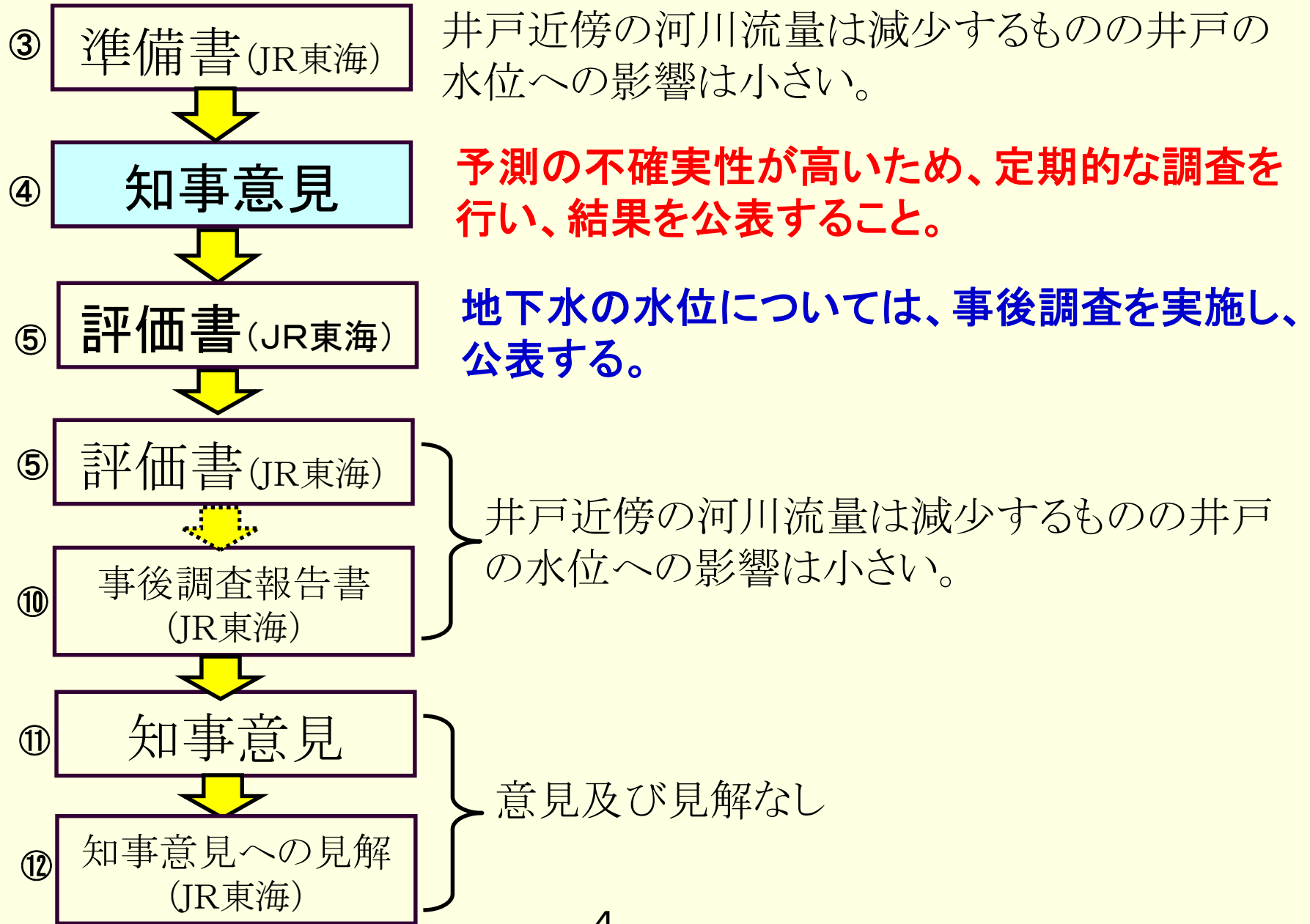
トンネル湧水は、導水路トンネルによる自然流下では戻らない分についてポンプアップを実施し、全量を恒久的かつ確実に戻すことを早期に表明すること。

⑫ 知事意見への見解 (JR東海)

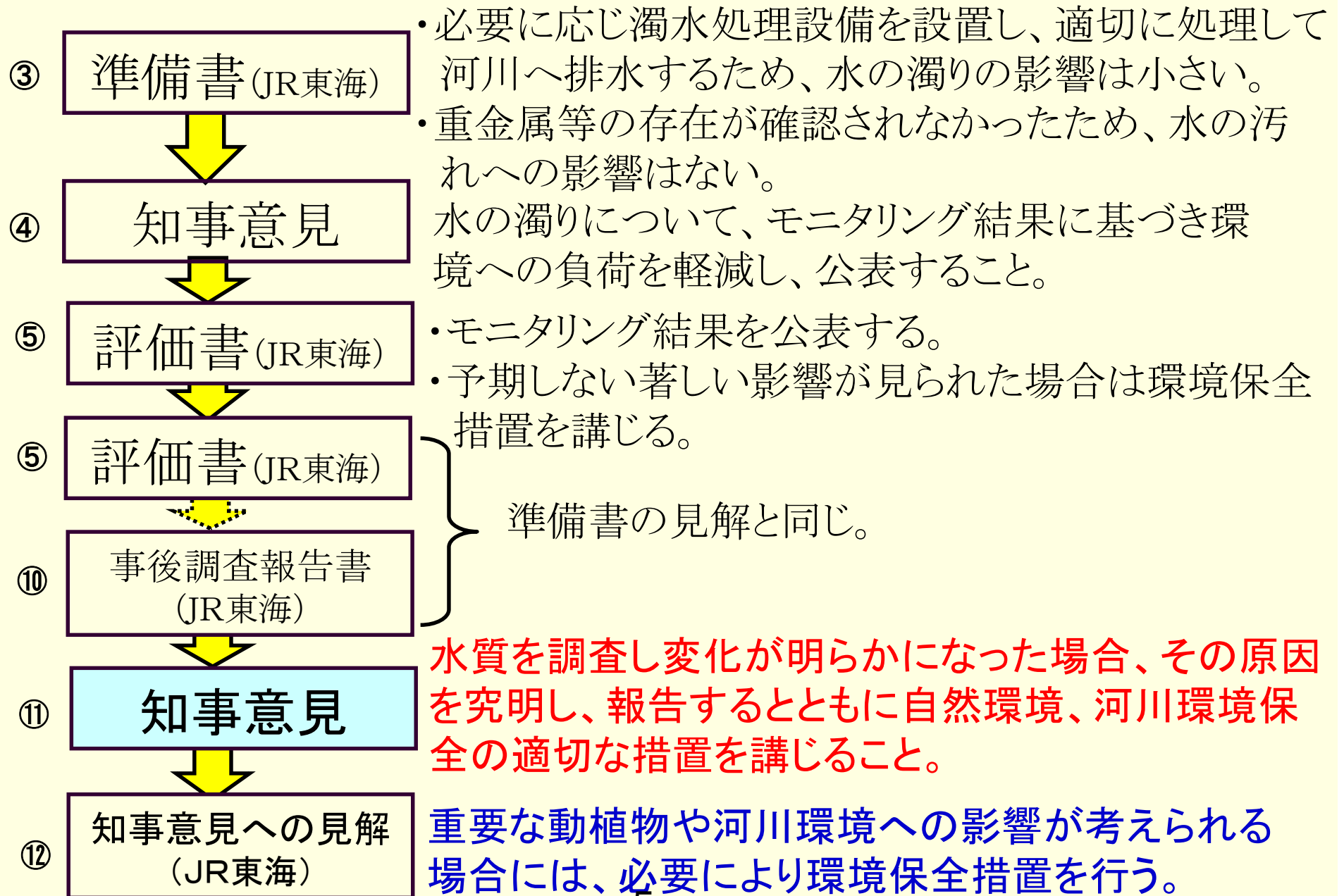
導水路トンネルを設置し必要に応じてポンプアップし、中下流域の影響が生じないようにする。

導水路トンネルの記載

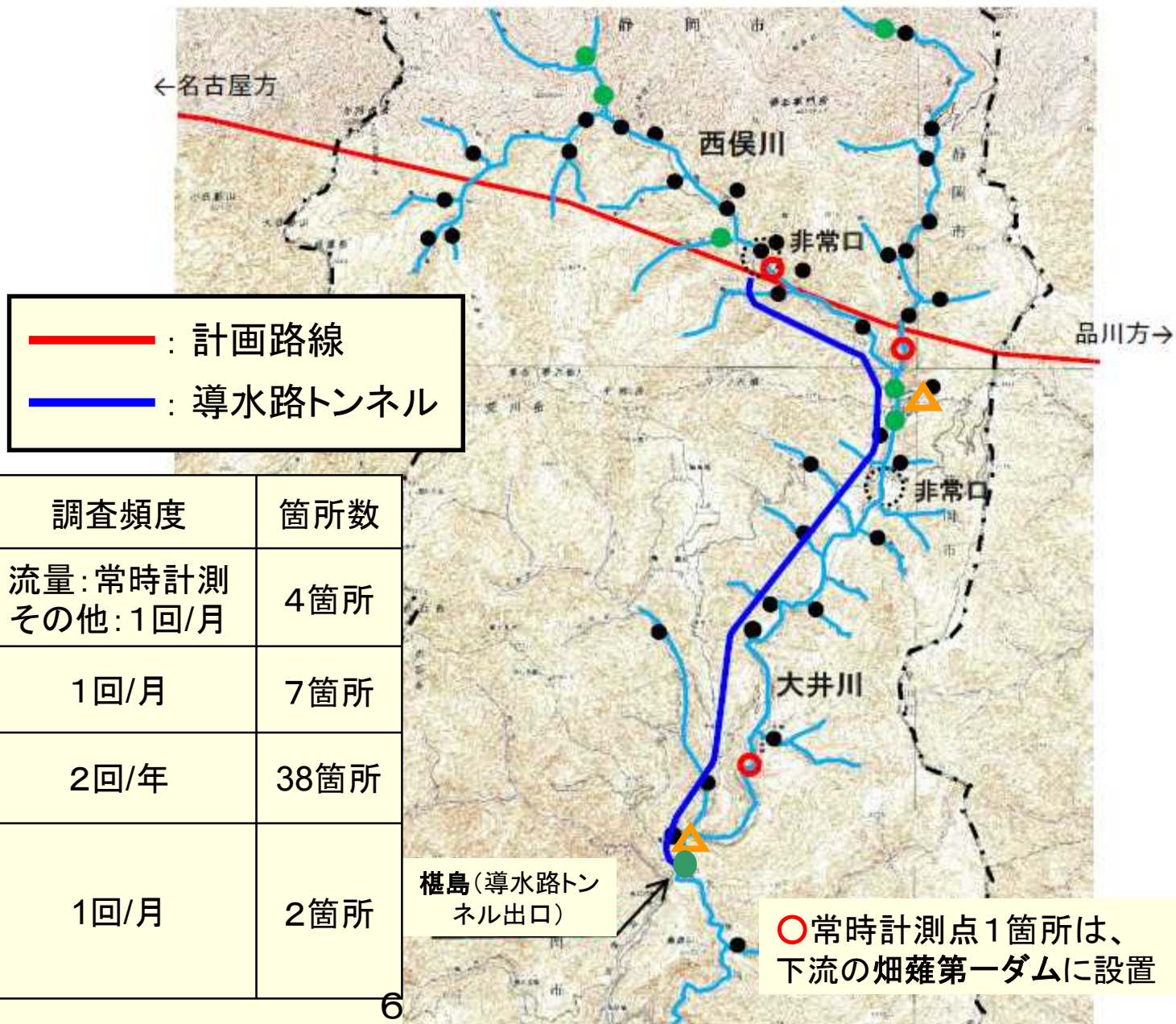
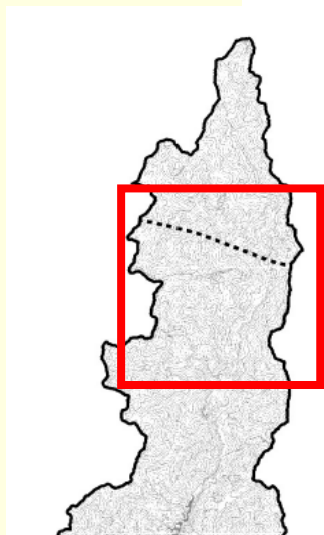
「地下水位」に関する 議論 の推移







「水質」(河川・地下水) に関する 議論 の推移



調査位置図〔河川流量及び水質、地下水位〕

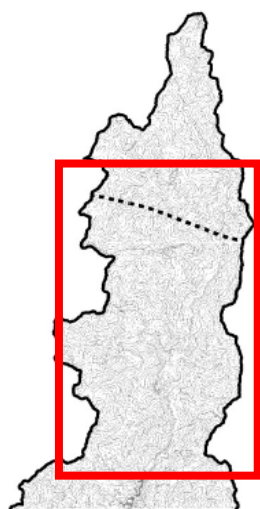


— : 計画路線
— : 導水路トンネル

凡例	調査内容	調査頻度	箇所数
  	流量、水温 pH、電気伝導率	流量: 常時計測 その他: 1回/月	4箇所
		1回/月	7箇所
		2回/年	38箇所
	地下水位 水温、pH 電気伝導率	1回/月	2箇所

○ 常時計測点1箇所は、
 下流の畑薙第一ダムに設置

調査位置図〔水の汚れ〕



二軒小屋発電所取水堰堤

大井川東俣第一測水所

品川方→

←名古屋方

凡例	調査内容	調査場所	箇所数
●	ss、pH、BOD 重金属等	導水路トンネル、 非常口 排水箇所	3箇所
○	ss、pH	大井川	2箇所
▲	ss	発生土置き場下流	3箇所
△	重金属等	既設井戸	2箇所

— : 計画路線
 — : 非常口(トンネル部)
 — : 導水路トンネル

環境影響評価における 県とJR東海の方考え方

	知事意見	JR東海見解	ポイント
河川流量の減少への対応	トンネル湧水は、導水路トンネルによる自然流下では戻らない分についてポンプアップを実施し、 全量を恒久的かつ確実に戻す ことを早期に表明すること。	導水路トンネルを設置し 必要に応じてポンプアップ し、中下流域の影響が生じないようにする。	知事意見では、「全量を戻すこと」を求めているが、JR東海は、「必要に応じてポンプアップする」と述べている。 見解が相違
地下水位調査の実施	予測の不確実性が高いため、 定期的な調査を行い、結果を公表 すること。	地下水の水位については、 事後調査を実施し、公表 する。	知事意見で、「定期的な調査と公表」を求め、JR東海もこれに応じている。 見解が一致
水質の変化への対応	水質を調査し 変化が明らかになった場合 、その原因を究明し、報告するとともに自然環境、河川環境保全の 適切な措置を講じること 。	重要な動植物や河川環境への 影響が考えられる場合には、必要により環境保全措置を行う 。	知事意見では、「変化があった場合の適切な措置」を求めているが、JR東海は、「変化があり、かつ影響が考えられる場合には必要に応じて措置する」と述べている。 見解が相違

